

地域のつながりで 次の災害に備える

防災計画策定や企業等との連携

10年前の熊本地震の教訓を生かして、各地域では地区防災計画(※)の策定や企業との連携など、さまざまな防災対策が進められています。地域主体の取り組みに、各区の担当職員も伴走しています。「対策のおかげで今年7月の地震では冷静に行動できた」との声も多く聞かれました。今回は地区防災計画を策定した地域の防災に関する取り組みの一部を紹介します。

※住民が主体となって策定する災害の備えや対応をまとめた計画。

東区・西原校区

大学と連携し「防災ツアー」を実施

東区の西原校区自治協議会では、地域の大学や企業との連携を進めています。東海大学熊本キャンパスとは災害時の避難者受け入れをはじめ、さまざまな連携を行っており、昨年度から東海大学の協力を得て、震災ミュージアムKIOKU等を巡る防災ツアーも実施しています。

また、10年前の地震では車中泊による避難先の確保が課題となったため、地域担当職員が校区にあるパチンコ店と話し合う場を設け、災害時に駐車場を活用できる防災協定を締結しました。同協議会長の日隈忍さんは、「『あいさつは防災の始まり』を合言葉に、住民同士、地域内の大学や企業との関係づくりも進めていきたい」と話します。



防災ツアーで熊本地震ミュージアムKIOKUを見学する参加者



防災ツアーでは旧東海大学阿蘇校舎も見学



日隈さん(左)と地域担当職員の石川主任主事(右)

西区・中島校区



計画策定のため開いたワークショップ



中島さん(中央)と藤原さん(右)
左は地域担当職員の鳥井政策監

町内ごとに「防災あいことば」を考案

西区の中島校区防災連絡会では住民参加による複数回のワークショップを開催し、地区防災計画を策定しました。特徴は、11の町内ごとに作成した計画を盛り込んだこと。校区は東西に長く、海寄りの地域と内陸部では水害や津波のリスクの度合いが違いため、「地域に合った計画が必要と考えました」と同連絡会副会長の藤原通隆さんは説明します。

町内ごとに「防災あいことば」を考えました。「向こう3軒両隣見守り強化」「誰でも気軽に話せるまちづくり」…。同連絡会副会長の中島裕三さんは「住民参加により計画策定を行ったことで、住民の防災意識が高まり、今年7月の地震ではお互いに声を掛け合う様子が見られました」と振り返ります。

北区・北部東校区



地域の危険箇所を見て回る住民



田尻さん(右から2人目)と
協議会メンバー
中央は地域担当職員の木本参事

町内ごとの「地域版ハザードマップ」を作成中

北部東校区自治協議会(防災連絡会)では、町内ごとの「地域版ハザードマップ」を作成中です。一時避難場所や大雨が降ったときに冠水しやすい道路、危険な水路などを写真とともに入れる予定です。同協議会(連絡会)会長の田尻一男さんは「校区には新しく移り住んできた住民がほとんど。地域にある危険を知ってもらうとともに、隣近所が顔見知りになって、いざというときに助け合える関係が目標です」と語ります。

10年前の地震では、小学校に避難する車が押し寄せました。そこで、災害時には小学校へ入る道路を一方通行にしようと、順路を示した地図を全世帯に配り、周知を図っています。

地域担当職員は地域の身近な相談窓口です！

地域担当職員は各校区に配置されており、地域に寄り添い、皆さんが安心して暮らせるまちづくりを進めています。地域に関するお悩みなど、お気軽に近くのまちづくりセンターへご相談ください。



各まちづくりセンターについてはこちら

お問い合わせはお近くの
まちづくりセンターへ

8ページ
自転車の交通ルールクイズの答え

正解は ○

自転車は、道路外へ左折するため合図を出した車両の進路を妨げてはいけません。その左側を無理に通る抜ける行為は、巻き込み事故の危険があるだけでなく、交通違反になります。(道路交通法第25条第3項)

熊本市コールセンター

市の手続きや休日当番医など、
気軽にお尋ねください。

ひごまるコール



午前8時～午後8時(年中無休)

ひごまるコール ☎ 096-334-1500

市政へのご意見・ご提案

市政に対するご意見やご提案等
をお寄せいただき市政運営に
かしていきます。

市民の声
投稿フォーム



公式ホームページ・SNS

最新情報をお届けします

ホームページ



Facebook



X



LINE



配布に関する問い合わせ

市政だより配布センター

☎ 0120-666-659

午前8時～午後8時
(土・日、祝日は除く)